

中西吉日出

なかにし
よしひで

奈良市議会 活動報告



奈良市議会議員

<http://www.nakanishiyoshihide.com>



クリーンセンター移転や、新斎苑の問題など 市民目線で効果的な取り組みを

奈良市議会の中西吉日出(無所属)は、オープンした「奈良市斎苑 旅立ちの杜」や、七条地区に建設を予定している新たなクリーンセンターについて質問に立ち「市民目線と公平・公正」を最重要視して取り組むよう強く求めてきました。特に国の合併特例債(借入)を活用した新斎苑建設は、用地取得額が鑑定額より「高過ぎる」とした高裁判決の確定を受け、総務省から差額の返済を指導されるなど、問題も浮上しています。令和3年度の私の議会活動を報告します。

税金の使途「公平・公正」強く指摘

新斎苑建設に活用した合併特例債

「差額」総務省が返済指導

紆余曲折を経て、新年度4月にオープンした市の新斎苑「奈良市斎苑 旅立ちの杜」II写真IIは、平成の大合併によって誕生した自治体が行うまちづくりのための事業費に、国が有利な条件で財源を貸し

付ける「合併特例債」を活用して建設されました。

一方、土地の取得も同債が一部活用(約7000万円)されましたが、市の取得費(1億6000万円)が、当時の土地鑑定額(約5100万円)の3倍で購入したのは「高過ぎる」とした住民訴訟で高裁が、仲川市長の裁量権の逸脱の違法性を認め、差額分(約1億1000万円)を仲川市長個人、元地権者2人が連帯し支払う判決が確定しています。

これを受けて、違法に高かった用地取得に活用された合併特例債について私は、市議会3月定例会の一般質問でただし、市は「総務省から過充当になるとの指導を受け、繰

り上げ返済など適切な対応を取るよう求められている」と明らかにしました。

返済すべき合併特例は5000万円ほどになると見られています。私は新斎苑につい

バス路線の存続を要望

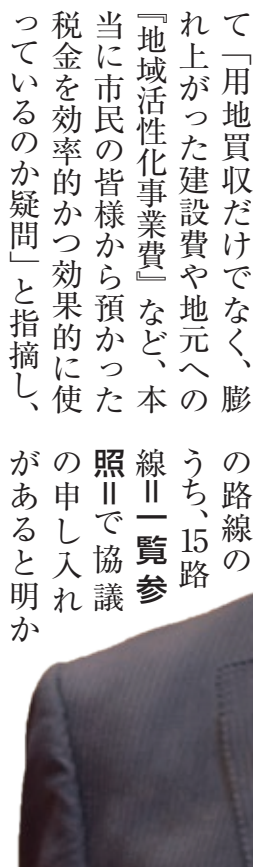
奈良交通が市内15路線の休廃止検討

「路線維持に市の支援を」

市議会3月定例会では、新型コロナウイルスの感染拡大による観光需要の低迷などを受けて、奈良交通が赤字が続く市内のバス路線を休廃止のため検討を始め、路線維持のため赤字補填を市に求めた協議をしたい意向があることについて「市民の不安が広がっている」とただし、詳細の説明を求めました。

私は奈良交通が「公共交通として果たしてこられた役割は大きい」とした上で、少子高齢

で「用地買収だけでなく、膨れ上がった建設費や地元への『地域活性化事業費』など、本来に市民の皆様から預かった税金を効率的かつ効果的に使っているのか疑問」と指摘し、厳しい財源の中で不測の返済に迫られることなどないよう、再点検を求めました。



の路線のうち、15路線II一覧参照IIで協議の申し入れがある」と明かしました。同社は「路線を維持していくためには市からの赤字補填による収支均衡」の主旨で市は、公共交通のあり方を検討する奈良市地域公共交通会議で取り上げ、利用実態を調査した上で、方向性を検討していきたいと答弁がありました。

私は、バス路線の休廃止については、東部山間部から市内への路線をはじめ、高齢者の通院など、多くの市民の方々から危機感や不安の声が寄せられていると指摘し、地域の実情に応じた移動手段の確保を強く要望しました。



奈良交通から市へ申し入れがあった休廃止対象の15路線

- 奈良笠置線
- 奈良柳生線
- 奈良月ヶ瀬線
- 東山線
- 赤膚六条線
- 歌姫線
- 済生会奈良病院線
- 四条大路線
- 八条町線
- あやめ池線
- 平城団地(神功)線
- 学園緑ヶ丘線
- 郡山若草線
- 高の原高山線
- 富雄庄田線